

エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションへの日本人専門家参加の概要

参加する専門家：国立感染症研究所 ウイルス第一部

下島 昌幸（しもじま まさゆき）博士

谷口 怜（たにぐち さとし）博士

訪問予定先： リベリア

参加期間：平成 27 年 3 月 25 日～平成 27 年 5 月 10 日（約 6 週間）

目的：エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションに専門家として参加し、現地の検査室に赴き疾病発生及び対策状況等について調査及び評価を実施するとともに、必要に応じ助言を提供する。

日本における WHO ミッションへの日本人専門家派遣の実績：

平成 12 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、3 回にわたり計 5 人(延べ 6 人)の専門家が派遣されています。

平成 24 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、1 名の専門家が派遣されています。

平成 26 年度は、今回の山岸医師、下島博士、谷口博士 3 氏の派遣により、WHO ミッションに参加する日本人専門家は延べ 17 名になります。

参考（厚生労働省検疫所ホームページ）：

・エボラ出血熱

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name48.html>